



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：日系米国人第1陣（米国）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国から大学生及び引率者 100 名が 2018 年 12 月 13 日～12 月 20 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：100 名

【訪問地】

東京都（全員）、長野県（グループA/B 50名）、和歌山県（グループC/D 50名）

2. 日程

	グループ A/B	グループ C/D
12/13(木)	【来日】	
12/14(金)	【オリエンテーション】 【日本理解講義】	
	【学校交流】東京大学 本郷キャンパス	【視察】浅草寺・仲見世
12/15(土)	【視察】海外移住資料館	
	東京都から長野県へ移動	東京都から和歌山県へ移動
12/16(日)	【文化体験】手すき和紙づくり 【視察】飯山市伝統産業会館、飯山市ふるさと館 【ホームステイ対面式】	【視察】熊野那智大社 【視察】美浜町・アメリカ村 【ホームステイ対面式】 【ホームステイ】
	【ホームステイ】	【ホームステイ歓送会】 【視察】湯浅町 【視察】広川町・稲むらの火の館 【文化体験】海南市・漆器蒔絵塗体験 【視察】海南市・温山荘
12/18(火)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】	【学校交流】和歌山大学 【ワークショップ（報告会準備）】 【歓送会】和歌山市ぶらくり丁
12/19(水)	長野県から東京都へ移動	和歌山県から東京都へ移動

	【視察】浅草寺・仲見世	【視察】皇居 二重橋前
	【成果報告会】	
12/20(木)	【表敬訪問】菅内閣総理大臣補佐官 【離日】	

3. プログラム記録写真

全グループ（東京都）



12/15【視察】海外移住資料館



12/19【成果報告会】

グループ A/B（長野県）



12/14【学校交流】東京大学 本郷キャンパス



12/16【文化体験】手すき和紙づくり体験



12/16【視察】飯山市ふるさと館



12/18【ホームステイ歓送会】

グループC/D (和歌山県)



12/16【視察】美浜町・アメリカ村



12/17【ホームステイ歓送会】



12/17【文化体験】漆器蒔絵塗体験



12/18【学校交流】和歌山大学

4. 参加者の感想（抜粋）

グループA（訪問地：長野県）

◆ アメリカ 日系アメリカ人大学生

「日本理解講義」はとても面白く、勉強になりました。多くのことを学び、とても楽しい講義でした。学校交流も大変興味深かったです。建物のスタイルがゴシック様式で古くからある名門大学であり、そして多くの留学生がいることなどを見学するのは大変興味深いことでした。多くの学生がとても上手な英語を話し、文化や食べ物、学校について楽しく話し合いました。私は日系アメリカ人として日本人学生とは異なる価値観を持っているので、日本の大学生と話したり繋がりを持つことは、素晴らしい学びでした。また、ホームステイに関する全てが素晴らしかったです。今までで一番素晴らしい家庭料理をいただき、日本語の知識は少しでしたがグーグル翻訳のちょっとした知識でコミュニケーションがよく取れ、ホストファミリーとの時間を楽しみました。食事をしながら、ポップカルチャー、政治、学校、生活、バスケットボール、食べ物や日系アメリカ人の強制収容に至るまで多くのことを話し合いました。町は小さいですが、そこにいる人たちのハートはとても大きかったです。滞在中、私たちはずっと愛され大切にされていると感じ、一緒に楽しく過ごしました。また、畳とこたつがある伝統的な和室に滞在し、楽しかったです。スキーをしたり、雪で遊んだり、また雪の街にいるのも好きでした。絶賛しきれない程です。新幹線に乗ったり、他の日系アメリカ人の仲間と旅をするのも楽しかったです。

◆ アメリカ 日系アメリカ人大学生

私たちが慣れ親しんでいる講義のスタイルとは大分違うので、東京での「日本理解講義」はとても興味深かったです。日本の講義はもっと詳細だと思いました。学校交流では、とても美しいキャンパスで、学生はとても礼儀正しく勤勉で印象的でした。一緒に過ごしたことは、私にとって最も興味深い出来事の一つでした。和紙づくりを見たことがなかったのですが、その技法をとても美しいと感じました。アメリカに戻ったら、もう一度作ってみたいと思っています。日系アメリカ人として育った私は、ホームステイで日本の文化に関する大きな刺激を受けました。日本人の日常生活や文化をより深く理解する力を大切に思いました。日本のライフスタイルは、はるかに体系的でバランスが取れているように見えました。また、日本にいる間に気付いたことの一つは、海外移住資料館で目にした日本人が海外へ移民した歴史の多くです。殆どの日系アメリカ人は、彼らの先祖の海外移民の歴史について全く知らないのです。仲間の日系アメリカ人と共有したいと思います。

グループB（訪問地：長野県）

◆ 米国、学生

「日本理解講義」では滞在中役に立つ多くの情報を得ることができました。学校交流では、お互い違っていても、多くを共有できること、またお互いを尊敬できることを感じました。和紙作りを体験した際、その工程の難しさがよく理解できました。職人が一人前になるまで多くの年数がかかることを知り、職人に対する尊敬の念を抱く

ようになりました。ホームステイは貴重な体験で日本人をより深く知ることができました。よく働くけれども、おもてなしの心を忘れず、腰が低い。日本人をより身近に感じようになり、またいつか自分も彼等のようになれるよう頑張ります。

◆米国，学生

「日本理解講義」で日本文化や日本社会のことを知り、日本滞在の心の準備ができました。特に日本文化が自然に大きく影響を受けていること、また伝統も四季がベースとなっていることを知りました。学校交流では日本人学生と自分たちの間に多くの共通点があることに改めて驚きました。この滞在のハイライトは何と言ってもホームステイでした。ホストファミリーはもちろん一緒に滞在した訪日団とも強い絆を築くことができました。飯山の温泉や山間の神社に車で移動中、ホストファミリーから彼等のこと、地域のことを聞くことができました。ホストファミリーは非常に温かく接してくださり、本当の家族のような繋がりを感ずることができました。日本語を勉強して、再来日し、絆を深めたいと思います。

グループC（訪問地：和歌山県）

◆米国，学生

和歌山大学での講義は興味深く、日本人が他の国々へ移住していること、またメガイベントの企画していること、ツーリズムの重要性を知りました。それは私や家族の歴史に直結する内容であり、興味深いものでした。大学では学生と話し合い、彼らの生活、趣味や関心事を知りました。

蒔絵体験や漆器工房では、日本人がいかに忍耐強いかわかりました。5年も器を乾かし、その後半年かけて漆を塗ることを知り感銘を受けました。職人さんは80歳で今も好きな仕事を継続しています。素晴らしいです。ホームステイは最良の出来事でした。ホストファミリーは田舎に住み農業を営んでいます。そこでは五右衛門風呂を体験し、伝統的な茶粥もいただきました。日本で学んだことの一つは、日本人はお互いを尊重し、環境、人々、国を尊重しているということです。このことに感動し、もっとたくさんの人々に来日してほしいと思いました。

◆米国，学生

和歌山大学での講義は興味深く有意義でした。学生たちも可能な限り英語で話してくれたので感謝しています。湯浅醤油や漆器工房などの訪問は充実していました。仕事の過程や、価値、重要性をたくさん共有しました。蒔絵体験の一つ一つの工程は芸術的で忘れがたいものです。実際の蒔絵はいかに難しいかわかる良い機会でした。日本で最も良かったことは、食事の素晴らしさ、生活様式を直に学んだこと、そしてこのプログラムでしか知り得なかった人々との出会いです。仏教徒として神社仏閣を訪問し、仏教の歴史を楽しく学びました。また日本の文化を大きく占める神社仏閣の各地を訪れたいと思います。

グループD（訪問地：和歌山県）

◆日系米国人，大学生

どの講義もとても有益で面白かったです。最初の講義は日本の文化に関するもので日

本人の生活様式について再考することができました。また今回のプログラムの中で実体験することにより理解を深めることができたと思います。印象的であったもう一つの講義は日本の観光事業に関する内容でした。私は、最近の日本の観光事業の急成長ぶりや、観光事業の成功の背後にある事業計画について何も知らなかったからです。同じ教室で日本の学生と共に講義に参加したことは特別な事に思われました。日本の学生と日々の生活について話をするだけでなく、講義について色々な意見交換をすることができた事は、まさに夢中になれた体験と言えます。和歌山の醤油会社や漆工場の訪問は、製品を作り出すために伝統的な工程を維持している様子がとても印象的でした。伝統的な手法により、その工程に何年もの時間を費やそうとも、作り上げられた製品は大変な努力の賜物と言えます。ホームステイについては、日本の文化である生活様式を体験することができてとても楽しかったです。日本の生活についてもっと体験したかったので、ホストファミリーと過ごす時間がもっとあれば良かったなと思います。

◆日系米国人，大学生

日本滞在中、私にとって一番心に残った大切なプログラムはホームステイです。ホームステイは短い時間でしたが、日本人の慈しみの気持ちやおもてなしの心を感じる経験となりました。私のホストファミリーであるお母さんは、印南町出身で、素敵で面倒見の良い思いやりのある方です。和歌山に親戚が居ますかと質問された時、私は和歌山に親戚が居るかもしれませんが、どこに居るのかはわかりませんと答えました。私の祖父の名前を告げた後、お母さんは即座に分かったようで、私の祖父の親戚の方に電話をしました。電話をしている間も、私に多くの質問を投げかけ、私の親戚なのかを確認してくださいました。電話の方が私に会いたがっていると聞いて、私は本当にドキドキしてしまいました。翌日の朝、私の素晴らしいお母さんと共にその家を訪問し祖父の兄弟の方と会うことになりました。感動的とも思える面会の中で、私は私の母や兄弟や祖父の写真を見せることになり、それを見た彼はとても幸せそうで、私は良いご縁ができたと感じました。カケハシプログラムのお陰で、私は私の親戚を見つけ出し、そして私のルーツを発見することができたのです。他のプログラムからも多くを学習することができましたが、私にとってはこのホームステイが最も重要なプログラムとなりました。

5. 受入れ側の感想

◆ ホストファミリー（グループA/B）

日本と関わりのある人達だったので、親近感が湧き仲良くなれました。何をしたいかと聞くと、皆「スキー」と言うので、3日目の半日スキーを楽しみました。スキーをやった事がある人もいたのですが、初心者にはレッスンもしたところ喜んでいました。2日目は戸隠神社に行き、お蕎麦も食べ、日本の生活を満喫できたと思います。別れる時に涙を流す子もいたので感激しました。

◆ ホストファミリー（グループA/B）

それぞれの家族のルーツを詳細に説明して頂きました。若い世代の方々が家族の祖先を敬い、戦争中の変な話を語り継がれていることに深く感動し、日本の現状の家族の在り方を考えさせられました。さわやかで健やかな精神を持った日系の若者たちに出会えましたこと、大変嬉しく貴重な時間でした。

◆ ホストファミリー（グループC/D）

彼らと本当に楽しい豊かな時間を過ごすことができました。三人の中に日本語を話せる青年がいてくれたので、日常生活からアメリカの文化や政治についてまで深い話がありました。しかも子供ではなく大人であったことも幸いでした。ある青年が自分の兄弟について面白おかしく、しかも愛情たっぷりに語ってくれたのには感心しました。他の青年は、自分のルーツが実は御坊市の塩屋に今住んでおられるあるお宅で、住所まで知っているのだと語ってくれて皆驚きました。おもわず明日の朝連れて行こうかと提案したほどです。「あなたの知っている日本人は誰」と質問したところ、皆「私の家族」と答えたのにも驚きました。もちろん自分はアメリカ人であるとは意識しているのですが、どこかで自分のルーツは日本にあるというアイデンティティーをしっかりと持っているのですね。とにかく対等に話し合えて、たくさんの刺激と感銘を与えてくれました。

◆ 学校交流参加学生（グループC/D）

今までネイティブで英語を話す方々とお会いする機会がなかったので、英語のリスニングとしても良い経験でした。ディスカッションも楽しく、やはり海外の学生さんは積極的なコミュニケーションをとってくれるという印象でした。日系だと聞いていたので、日本語を話せる人が多いかなと思っていましたが、少なくて驚きました。夜の歓迎会では、昼に聞けなかった少し踏み込んだ話題も上がり、いつもの海外の学生とは違った体験ができて良かったです。可能であれば、ディスカッションのトピックでお互いのイメージについて話し合えたら面白かったかもしれないと感じました。

6. 参加者の対外発信

 <p>「いいね！」 405件 madiwong_ nothing but warm and fuzzies for my amazing homestay experience and the friendships cultivated in nagano! thank you, oono... 続きを読む コメント6件すべてを表示</p>	 <p>bthekakehashi Making our own washi paper was definitely a highlight of our visit to Nagano! The water was super cold but we can't wait to see our finished masterpieces 🍵 Thank you for teaching us</p>
<p>（グループA）ホームステイについての発信（Instagram） 長野で培った私の素晴らしいホームステイ経験と友情は暖かくて、ほんわかしていることにほかなりません。ホストファミリーのみなさん、私たちを甘えさせてくれて、自分の家族のように連れて行ってくださりありがとうございます。</p>	<p>（グループB）文化体験についての発信（Instagram） 和紙作りは長野旅行のハイライト！水はとても冷たかったけれど、でき上がった作品を早く見たい。教えてくれてありがとう。</p>

Takehashi Fam C in front of the Imperial Palace. What a dazzling group.
 翻訳を見る



(グループ C) 視察についての発信 (Facebook)
 皇居前での C グループ、なんて輝かしいグループでしょう。

Visited the Nachi Taisha Shrine and saw the tallest waterfall in Japan. The whole area was breathtakingly beautiful. #takehashi2018 #nachifalls @ Nachi Falls



(グループ D) 視察についての発信 (Facebook)
 熊野那智大社を訪問、日本で最大の滝を見学した。その全景は息をのむほどの美しさであった。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

ACTION PLAN
When?

When: From now through March 2019, as a group, we will...

1. Make personalized stickers (Kyra: Feb 2019, through Red Bubble)
2. Write articles for JAACL Chapters (Grace, Kristina, Justin K. Ryudo, Kyle, Mariah, and Kraig: Jan 15, 2019)
3. Present experiences at individual schools (Kyra, Nicole, Mark, Kraig, Reed, Justin K, Akira, Kyle, and Kelly: March 2019)
4. Make Promotional Videos (Akira, Esther, Madi, Justin D, Reed, Nicole, and Ashley: April 2019)
5. Social Media Campaign (Everyone: over the next 3 months)
 - o 3 posts total
 - o Completed over the span of 3 months, one post a month.
 - o Themed & Group Instagram

Social Media Hashtags
 #Tokyo #Japan
 #Nagano #Kakehashi2018
 #NasukashiNihon
 #BestGroupCvA

Facebook, Instagram, Email icons

- Create an all accessible curated gallery via Instagram & Facebook that all Group B members contribute to, sharing memories, ideas, and lessons learned.
- At least one post per person each month for 3 months
 - Each person assigned a specific day of the month
 - Post types:
 - Before - what inspired you to come to Japan, family history, previous impressions
 - During - pictures and findings from this trip
 - After - how the trip influenced you
- Begin on January 1, 2019

アクション・プランの発表 (グループ A)

- ① KAKEHASHI ステッカーを作る。2019 年 2 月までにレッドバブルを活用し、参加学生の一人が担当する。
- ② JAACL チャプターに記事を書く。2019 年 1 月 15 日までに訪日団 7 名が担当・実施する。
- ③ それぞれの学校で体験した事をプレゼンする。2019 年 3 月までに 9 名の訪日団が担当する。
- ④ プロモーションビデオを作成する。2019 年 4 月までに訪日団 7 名が担当する。
- ⑤ SNS キャンペーンを行う。向こう 3 か月にわたり訪日団全員が行う。全部で 3 件アップし、3 か月間で終了する。1 か

アクション・プランの発表 (グループ B)

グループ B メンバーであれば誰でもアクセスできるギャラリーをインスタグラムやフェイスブック上に作成。全員が月に最低 1 回、3 か月の間、思い出、考え、学んだことを投稿し続ける。投稿は以下 3 種類：

- ① 来日前→なぜ日本に行くことにしたのか、家族の歴史、日本に対する印象
- ② 来日中→写真や学んだこと
- ③ 帰国後→参加してどの様な影響を受けたか

2019 年 1 月 1 日に開始する。

月に1件アップし、テーマ別及びグループインスタグラムを活用する。

PLAN LOGISTICS (FILM): ISZAC GATON



- The film will be a 10 minute video and will depict brief clips of stories and discoveries from our time in Japan
- Video will be comprised of footage taken in Japan and interview clips taken after returning to the States
- No copyright music
- Interviews will be prompted by questions such as: How did your initial perception of Japan evolve? What moment left the biggest impression on you? What impact has this trip had on your Japanese American identity?
- Three editors: myself, Dylan Murakami, and Lars Christensen. Discuss flow of narrative and aesthetics of the overall video. Divide workload and produce a rough draft at the end of January. Fine tune the video by the end of next month.



Clubs/Organizations

- Hawaii Pacific Islander Club
- NSU (Nikkei Student Union)
- JAACL (Japanese American Citizens League)
- YPC (Young Professionals Caucus)
- JAYS (Japanese American Youths)
- Buddhist Temples
- Japanese Language Classes



アクション・プランの発表（グループC）
SNS を通じて日系アメリカ人や米国の人々にウェブサイトやビデオを提供する。
10分のビデオにはそれぞれの短い話と日本滞在での発見が含まれる。日本での写真や帰国後のインタビューもあり著作権のある音楽は含まれない。インタビューは今までの日本に対するイメージの変化、最も印象深い内容、日系アメリカ人のアイデンティティにどのように影響を与えたかなどの質問である。ビデオの芸術性、ナレーションは討議し1月末までに仕事を分担しドラフトを作成。2月末までにビデオを発信する予定。

- アクション・プランの発表（グループD）
- ①日本滞在中に体験した写真と共に SNS を通じて友人や家族に日本の情報を提供する。
 - ②友人や家族にお土産を渡しその内容や真意を説明する。
 - ③大学のクラブや学生組織を通じてまたは大学のキャンパスイベントにて、私達の日本での体験を紹介し他の学生と共有する。
 - ④私達のルーツをより深く研究する。
日系アメリカ人であることの意味や私たちの祖先の経験がどのように私たちに影響を与えたかを JAACL の活動を通して、あるいは地域の他の日系アメリカ人との関係を築くことによって互いに研鑽する。
 - ④ 家族と共に日本を訪問し、家族に日本の豊かな文化や歴史を紹介する。
 - ⑥日本での新しいつながり（未だ見つからない親戚等も含め）を築く。
 - ⑦日本で出会った人々との関係を今後も継続する。

いつ実施するか：我々がアメリカに戻った後（12月20日以降、より大きいイベントの場合は長期見通しにて）

誰が実施するか：「カケハシ・プロジェクト」グループD参加者

誰に対して実施するか：

自国の友人や家族（日系アメリカ人かは問わず）、学校、地域社会に対して実施する。